

編集後記

今年度は本共同研究室にとって、一つの大きな転換期であった。関教授が定年退官し、岡本専任講師がスコットランドへ長期留学し、構成員が減少した。そればかりでなく、メンバーの何人かは学内の要職にあり、そちらに多くの時間を割かれている。後者は加齢に伴う一つの貢献であるではあるが、共同研究室にとっては大きなハンディである。

こうした動向のもとに、共同研究のあり方について真剣に議論した年でもあった。70年代、80年代に若手であった面々も今や要職に着く世代となり、また個々人の研究の要塞も堅固となり、かつての「柔軟さ」は薄れつつある。これは研究の発展に伴う長所であり、また短所でもある。

私も、研究部長として、こうした研究の多様化と組織の求心化に直面する現状をどう打開したらよいかを模索した一年であった。

厳しい中にも、もっと外に、もっと若手との交流を推進して行きたいと思う。

関係者のみなさんのご尽力で、今年度の『研究年報 2001』ができあがった。感謝したい。(内海)

なお、本書の内容は、文部科学省科学研究費による共同研究(「スポーツのグローバル化と多様性」)の成果である。

研究年報 2001

スポーツのグローバル化とローカリゼーション

2001年9月1日 発行

編集・発行 一橋大学スポーツ科学研究室

〒186-8601 東京都国立市中2-1

042-580-8270
